知床世界自然遺産地域における長期モニタリング項目と評価結果について（2012 年度～ 2021 年度）

評価項目	評価結果	モニタリング項目
Ⅰ 生態系の生産性の維持	😊	アザラシの生息状況
	😊	海域の生物相及び生息状況
	😊	浅海域における貝類定量
	😊	スケトウダラの資源状況
	●	衛星リモートセンシングによる水温・クロロフィルaの観測
Ⅱ 海と陸の相互関係の維持	😊	海域の生物相及び生息状況
	😊	浅海域における貝類定量
	😵	ケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数
	😊	知床半島のヒグマ個体群
	😊	河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所および産卵床数
	😊	海ワシ類の越冬個体数
	😄	オジロワシの営巣地における繁殖の成否及び巣立ち幼鳥数
Ⅲ 生物多様性の維持	😊	アザラシの生息状況
	😊	海域の生物相及び生息状況
	😵	ケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数
	😐	知床半島全域における植生の推移（森林植生／海岸植生／高山植生）
	🙂	希少植物（シレトコスミレ）の生育・分布状況
	😊	陸上無脊椎動物（主に昆虫）の生息状況
	😊	陸生鳥類生息状況
	😵	中小型哺乳類の生息状況（外来種侵入状況含む）
	😊	知床半島のヒグマ個体群
	😵	淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類相を特徴付けるオショロコマの生息状況（外来種の侵入状況含む）
	😊	シマフクロウのつがい数、標識幼鳥数、死亡・傷病個体と原因
	😄	オジロワシの営巣地における繁殖の成否及び巣立ち幼鳥数
	●	広域植生の分布変化
Ⅳ 海洋生態系の保全と漁業の両立	😊	アザラシの生息状況
	😵	ケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数
	😊	河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所および産卵床数
	😊	スケトウダラの資源状況
	😊	海水中の石油、カドミウム、水銀などの濃度
	●	衛星リモートセンシングによる水温・クロロフィルaの変化
Ⅴ 河川生態系の維持	😊	河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所および産卵床数
	😵	淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類相を特徴付けるオショロコマの生息状況（外来種の侵入状況含む）
Ⅵ エゾシカ影響の防止	😐	エゾシカ個体数調整実施地区における植生変化の把握（森林植生／草原植生）
	😐	知床半島全域における植生の推移（森林植生／海岸植生／高山植生）
	😐	エゾシカの主要越冬地における生息状況（航空カウント／地上カウント）
	😊	陸上無脊椎動物（主に昆虫）の生息状況
	😊	陸生鳥類生息状況
Ⅶ レクリエーション等と環境保全の両立	😵	ヒグマによる人為的活動への被害状況
	😄	適正利用に向けた管理と取組
	😊	適正なエコツーリズムの推進
Ⅷ 気候変動の把握	😊	アザラシの生息状況
	😊	知床半島全域における植生の推移（森林植生／海岸植生／高山植生）
	😵	希少植物（シレトコスミレ）の生育・分布状況
	😵	淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類相を特徴付けるオショロコマの生息状況（外来種の侵入状況含む）
	●	衛星リモートセンシングによる水温・クロロフィルaの変化
	●	広域植生の分布変化
	●	気象の変化

評価基準に対する結果（適合状態）	適合（改善傾向）	適合（現状維持）	適合（悪化傾向）	非適合（改善傾向）	非適合（現状維持）	非適合（悪化傾向）	モニタリング未実施
	問題のない状態（目指すべき状態）		大きな問題があるとは言えない状態（注視すべき状態）		問題のある状態（状況改善のため対策を検討すべき状態）		評価できていない

知床世界自然遺産地域・長期モニタリング計画（2012～2021年度）総合評価書は知床データセンターのホームページをご覧ください。
http://shiretoko-whc.com/management/monitoring.html

発行：環境省釧路自然環境事務所

資料6-2

世界自然遺産「知床」のいま

長期モニタリングからみた知床の価値

知床は季節海氷の影響を受けた海と陸の生態系のつながりが特徴です。多くの希少種や固有種を含む様々な生きものが暮らす重要な地域であることが評価され、2005 年に世界自然遺産として登録されました。

知床世界自然遺産の価値を未来に引き継いでいくためには、科学的な知見に基づく管理が重要です。このため、知床では、関係者（行政と地域）の協力・連携により長期モニタリングを行っています。知床世界自然遺産地域科学委員会では、2012 年度～ 2021 年度までの 10 年間で得られたデータをもとに、知床の世界自然遺産の現状について、健康診断となる総合評価を行いました。

知床世界自然遺産地域科学委員会
2022 年 3 月

Ⅰ 生態系の生産性の維持

- 季節海氷の影響を受けて成立している特徴的な海域の生態系は、アザラシの生息状況やスケトウダラの資源状態、浅海域での貝類の生息状況などから判断すると、遺産登録時の状況が維持されています。
- 気候変動（季節海氷の減少、気温・海水温の上昇など）による海域生態系への影響が懸念されます。

Ⅱ 海と陸の相互関係の維持

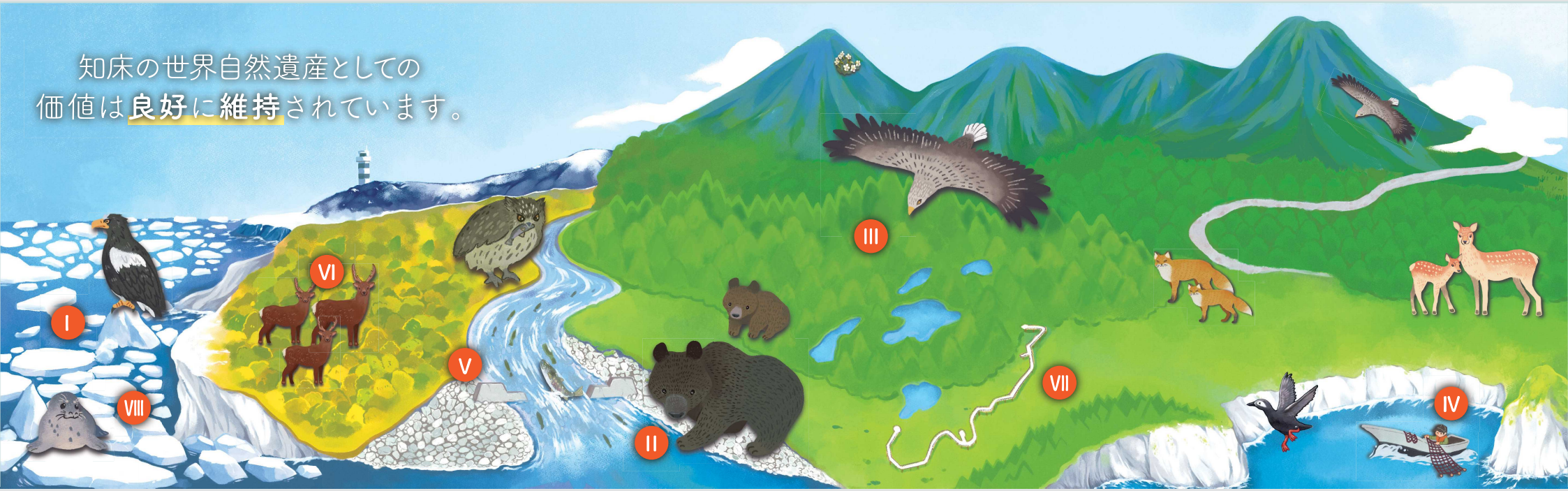
- 海域の生物相はおおむね維持されています。また、河川工作物の改良によってサケ科魚類の遡上・降海が促進されているなど、海洋生態系と陸上生態系の相互関係は遺産登録時の状況が保たれています。
- ウミウやカモメ類といった海域から陸域へ栄養物質を運んでいる海鳥の一部では生息数が遺産登録時から半減しているため、その要因を解明していく必要があります。

Ⅲ 生物多様性の維持

- 生物相は遺産地域全体としておおむね遺産登録時の状況が維持されており、大きな問題は認められていません。
- 一部の海鳥や淡水魚で減少傾向が確認されており、外来種の分布動向も含めて、注視していく必要があります。

Ⅳ 海洋生態系の保全と漁業の両立

- 海洋生態系の保全と持続的な水産資源の利用により安定的な漁業が両立されています。
- サケ科魚類やスルメイカなどの漁獲が減少しており、スケトウダラを含む主要な水産資源の変化を注視していく必要があります。



Ⅴ 河川生態系の維持

- 河川工作物の改良が進み、サケ科魚類の遡上・降海が促進されています。
- 河川環境の変化に敏感なオショロコマの生息密度が遺産地域全体としては減少傾向にあり、注視していく必要があります。

Ⅵ エゾシカ影響の防止

- 増えすぎたエゾシカの捕獲（個体数調整）を行っている知床岬地区においては、一部の草本植物が回復傾向にあり、開花個体も増加しています。
- 知床半島全域では、遺産登録時と比べて植生の状況に大きな変化はありませんが、森林植生や一部の海岸植生ではエゾシカによる採食の影響が続いています。

Ⅶ レクリエーション等と環境保全の両立

- 観光や農林水産業などに関する遺産地域の適正な利用や、エコツーリズムを実現するための管理と取組が行われています。
- ヒグマによる観光客への危険事例や農業被害等が問題となっており、状況の改善が求められます。

Ⅷ 気候変動の把握

- 現時点のモニタリング体制では、気候変動の影響を十分に評価できる段階には至っていません。
- 現時点で気候変動による大きな問題は確認されていませんが、気候変動への適応に関する計画の策定も視野に入れ、モニタリングの実施体制等の見直しや改善が必要となっています。